

全日本スーパーフォーミュラ第4戦&第5戦鈴鹿大会。 土曜日の第4戦、ポイント目前まで攻めた Juju の快走！



結成2年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing』は、5月22日（金）～5月24日（日）に三重県・鈴鹿サーキットにて開催された『2026年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦・第5戦鈴鹿サーキット』に参戦いたしました。今大会は金曜日に2回フリー走行、土曜日に第4戦予選&決勝、日曜日に第5戦予選&決勝が行われる形となり、金曜日は暑く、土曜日は肌寒くなるという、大きく変化するコンディションの中での戦いとなりました。

HAZAMA ANDO Triple Tree Racing の10号車をドライブする Juju は、土曜日午前10時50分から実施されたフリー走行1回目では気温25℃、路面温度43℃というコンディションの中、走り出しからリヤのグリップ不足を訴えました。限られた時間の中でセットアップを変更しながら1分41秒205で24番手。午後のフリー走行2回目は気温25℃、路面温度41℃というコンディションとなり、最終的に1分39秒252で23番手と予想外に厳しい初日となってしまいました。



チームは走行データを解析し、Juju のコメントを参考に持ち込んだセットアップを大きく変更。土曜日の予選に向けて夜遅くまで作業を続けました。

Juju は全 24 台が 2 組に分かれて争われる予選 Q1 の A 組に出走し、気温 18°C、路面温度 21°C というコンディションの中、最終的に 1 分 39 秒 839 で A 組 10 位となりました。残念ながら Q2 進出はならず、決勝レースのスターティンググリッドは 10 列目、19 番手からのスタートとなりました。

「試行錯誤した持ち込みセットアップでしたが、コンディションの変化にチームとして対応しきれておらず、土曜日の予選に向けて大きく変更したセットアップも完全とは言えませんでした。決勝ではドライバーにひとつでも上を目指してもらおうべく、短いインターバルではありますが、できる限りの対策を施しています」と野田英樹監督は決勝前、厳しい表情で語りました。

Juju は、「チームとして暑い時期での鈴鹿に対する経験やデータが無く、ドライバーとしても合わしきれず、フリー走行ではかなり苦戦しましたが、セッションが進むにつれて着実にハンドリングは良くなっていきました。ただ予選でもまだ納得できるセットアップが出ていなくて悔しい気持ちはありますが、決勝ではチームの皆さんの努力に対して、ひとつでも上の順位を目指して頑張ります」と集まってくださったスポンサーの皆様の前で決勝への意気込みを語ってくれました。

決勝レース直前まで天候が心配されましたが、フォーメーションラップスタート時刻の 14 時 45 分の時点で天候は曇り、気温 22°C、路面温度 22°C と予選同様のコンディションになりました。15 分間のレコノサルラップでマシンの感触を再確認し、グリッド上でギリギリまでセットアップを考え抜いた Juju とエンジニアは、勇気をもって最後の決断をぐだしました。

レースは誰もが予想し得なかった荒れた展開となりました。スタート直後に 3 台に抜かれた Juju ですが、3 周目の 130R で F2 優勝経験があるドライバーのインを刺す鮮烈なオーバーテイクを見せてひとつポジションを戻し、さらに前をいく 6 台と一丸となって激しいバトルを繰り広げます。

ピットウィンドウがオープンとなったタイミングで上位陣のうち 7 台が早めのピットイン。その間に激しくプッシュし、次のラップでピットに飛び込んだ Juju を、HAZAMA ANDO Triple Tree Racing のメカニックたちが素早いタイヤ交換でサポートします。

再び追い上げを開始した 10 号車はペースの遅い前のマシンを抜きあぐねていましたが、15 周目のシケインで一気に差を詰めると 17 周目の 130R 手前であっさりパス。20 番手まで浮上したところで 1 台が 130R で激しくクラッシュし、セーフティーカーが導入されました。チームはすかさずそのタイミングで再びフレッシュなタイヤに交換し Juju をコースに戻します。

残り 11 週の段階で 19 番手にポジションを戻した Juju ですが、セーフティーカーラン中に雨が強く降り始めており、そのままレースが再スタートとなった 22 周目にトップ

Triple Tree Racing



集団で2台が別々にコースアウトするアクシデントが発生。またしてもセーフティーカーが導入されます。

この時点で16番手だったJujuは、そのタイミングでレインタイヤに交換するため再びピットへ飛び込みます。多くのマシンが同様にレインタイヤに交換したのですが、中団グループの数台がギャブルに出てそのままステイアウト、レースは大きく動きます。

24周目、Jujuは17番手。上位8台がスリックタイヤで、それ以降がレインタイヤという状況の中、雨は強く降り始め、セーフティーカーランの最中にスリックタイヤからレインタイヤに交換するマシンが出て16番手へとポジションアップ。しかし雨はセーフティーカーランの間に弱まり始め、レースは28周終了時に再開され、残り4周レースとなりました。

雨の弱まった路面ではスリックタイヤが正解で、レインタイヤを装着したマシンに勝機はありませんでしたが、同じレインタイヤを履くマシンの中で、10号車はまるで水を得た魚のように周囲を驚かせるペースで前をいく強豪たちに襲い掛かりました。デグナーふたつめで序盤3位争いをしていたマシンをパスし、最終ラップまで前に行くマシン以上のペースで追い続け、最終的に14位でチェッカー。戦い抜いたJujuにピットから無線で「良いレースだった。本当によく頑張った」と賞賛の言葉が投げかけられ、逆にJujuからはメカニックたちに「タイヤ交換、完璧でした。本当にありがとう。明日はもっと予選で前に行けるよう頑張ります」と力強いメッセージがありました。



Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
4	鈴鹿	31	曇一時雨	20℃	22℃	19	14

※天気、気温および路面は決勝スタート時



◆ドライバー Juju のコメント

「結果論ですけど、ステイアウトしていたら確実にトップ 10 には入れました。そういう意味では悔しいなという気持ちは大きいんですけど、レース全体を振り返って考えるとボロボロだった今日の予選から、エンジニアやチームの皆さんがいろいろ考えてくれて、レースに向けては大きくセットも変えてくれました。それがいい方向に行くかどうかわかりませんでしたけど、実際にレースペースはとても良かったので、そこはエンジニアに感謝しています。レース展開的にも、結構オーバーテイクもできて、自分的には楽しいレースだったかなと思いますし、少しは成長をおみせできたかなとは思いますが、目標はトップ 10 に入ることなので、そのためには予選をもう少し前でまとめられていたら、もう少し前からスタートできていたら、この流れの中でもトップ 10 に入れたと思います。今日のレースペースは良かったので、明日の予選は今日よりも良くなるとは思いますが、今回勝負の鍵になったピット作業もすごく良かったです。タイヤ交換は全体の 2 番手の速さだったと聞いたので、チームのひとりひとりが確実に進歩しているなと感じています。課題はやはり予選ですね。明日もいい結果を目指して頑張ります」

◆監督 野田英樹のコメント

「今日、ドライバーは本当に良いレースをしていました。果敢に攻めて抜いてきたし、攻め込まれても引かなかったし、非常に良いレースをしたと思います。しかしチームとして戦略の判断、瞬時の判断という部分で反省点はあるかなと思います。監督としての自分がもう少し良い判断をしていれば、ドライバーにももう少し良い結果を残させてあげられたかなという意味では、反省しなければなりませんし、正直、悔しいです。ドライバ



一も良い仕事をして、メカニックもピット作業で素晴らしい仕事をしてくれました。それを良い結果につなげられなかったのは、すべて自分の責任だと思います。ラップタイムも良かったですし、前の遅い車に引っかかって、タイヤの美味しいところを使いこなせなかった状況下でも十分速いラップタイムをマークしていたし、クリーンエアで走っていたら、かなり上位で戦えたはずのレースでした。エンジニアやメカニックが頑張ってくれて、予選終わりから決勝スタートのギリギリまでの時間で大きくセットを変更してくれたおかげです。ドライバーとメカニックたちは本当に頑張ってくれたと思います。作戦さえもう少し適格であれば、ポイントは獲得できたレースでしたし、明日に向けて、自分の監督としての仕事をしっかり見つめなおします。エンジニアも含めて、チームを引っ張っていく立場の人間がもっとしっかりしなければという部分が明日の最も大切なポイントです。今日の決勝は、ある意味、明日に向けてのギャンブルでした。明日の予選を見越して大きくセットを変えたことが、結果として良い方向に行ったので、今日のデータをしっかり見直して、明日の第5戦予選に向けてすべてを見直します。今日も応援ありがとうございました」

◆代表 村司宏樹のコメント

「自分たちの後方からスタートして、自分たちよりペースが悪かったマシンがポイント圏内でフィニッシュしている現実があった不思議なレースでした。コンディションの変化で荒れた事に原因があるとはいえ、前向きに考えるとチームの目標であるポイントにも近づいているのかなとも思います。ドライバーも攻めたレースをしてくれましたし、メカニックたちも日頃の練習の成果を着実に見せてくれて、チームとしては『自分たちはやれるんだ』という自信になってきていると考えています。多くのスポンサーの皆さんが期待をもって応援に来てくださったことにはいつも感謝しておりますし、明日のレースこそ全員で壁を乗り越えてポイントをもぎ取りたいと思います」



◆本件に関する問い合わせ先◆

Triple Tree Racing チーム代表 村司宏樹

e-mail: muraji@3tree.jp / mobile :080-3624-3989

Triple Tree Racing

